

Japanese Society for Study of Special Needs Education
日本特別ニーズ教育学会（SNE 学会）通信第 8 号

日本特別ニーズ教育学会（2017 年 1 月 25 日発行）

I. 代表理事挨拶：「日本特別ニーズ教育学会」第 8 期理事会の課題

高橋智（東京学芸大学）

学会員のみなさま。

第 8 期理事会（2016 年 10 月～2019 年学会大会開催時）の代表理事に選出された高橋です。第 8 期理事は総勢 14 名ですが、「荒川智、猪狩恵美子、石川衣紀、奥住秀之、小野川文子、加瀬進、澤隆史、田中謙、田部絢子、二通諭、村山拓、吉利宗久、渡部昭男」の各理事の方々と 3 年間、本人・当事者や社会にとって意義ある学会研究活動を運営面において支えていく所存です。精一杯に取り組んでいく決意ですので、ご協力・ご教示等のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今期理事会の検討課題について、いくつか述べさせていただきます。

第一に、第 8 期（2016 年～2019 年）は、設立 20 年（1995 年→2015 年）を経て NEXT10 年（2025 年、設立 30 年）に向けた学会ビジョンを明確にするという課題を有しています。文部科学省や関連学会もインクルーシブ教育推進に舵をきった時代における「特別ニーズ教育」のめざすものと「特別ニーズ教育学会」の価値・意義・役割の再整理・再確認が不可欠と考えています。

そのために、①本学会の当事者性と権利性をより明確にし、当事者の参加・発言の保障、当事者研究の促進をはかる、②学会大会・中間集会、SNE ジャーナル等のあらゆる機会において特別ニーズ教育、特別ニーズ教育学会の価値・意義・役割の再確認と共有をはかる、③SNE 学会編『特別ニーズ教育入門』ミネルヴァ書房の改訂作業を通して「特別ニーズ教育」の再整理・再検討を行うことなどが求められています。

第二に、学会員数の増加と若者支援・後継者養成を目指すプランニングです。第 7 期理事会において「学会奨励賞」制度が創設されましたが、特別ニーズ教育を担う未来の研究者・教師を育てる努力を惜しまず、小規模学会のメリットを活かして、若者との議論や関わりを丁寧に行い、未来に種をまく仕組みをつくるという課題です。

例えば、①学部生のうちに「学会」を肌で感じる機会を作るために「学部学生会員」制度を設ける、②卒論・修士論文・博士論文デザイン発表交流会を設ける（大学院博士課程クラスの若手が企画運営、フロアから意見・助言を得られるようなインターカレッジな中間発表会の場、中間集会ないし学会大会前日に設定）、③院生の研究を支援する方策の検討（研究助成制度）、④学会大会における大学院生企画によるシンポジウム・ラウンドテーブルの開設、⑤特別ニーズ教育・特別支援教育・インクルーシブ教育に興味・関心のある中学・高校生が学会大会等に参加し、活動報告・意見交換をして学ぶことを支援する方策の検討（学会大会における中学・高校生分科会の設置）など。

第三に、学会の広報活動・情報発信の強化です。そのために、①ウェブサイトを更新・

拡充し、「会報」も電子版としてウェブサイト掲載とする（印刷・郵送費縮減を兼ねて）、②老舗の日本教育学会もメーリングリスト制度を導入しましたが、学会から会員へ一斉情報配信できるシステムの整備は不可欠であり、学会が何を考えていて、何をしていきたいのかを様々な形で会員に発信してつながりを持続させていくこと、③災害や事件が発生した際の声明の発信、などが課題です。

第四に、学会機関誌『SNE ジャーナル』のさらなる充実と査読の適正化の課題です。ありがたいことに『SNE ジャーナル』の評価と認知が広がり、論文投稿数は年々増加していますが、論文査読は現行の編集委員（＝理事）のみでは負担・困難が大きく、より充実した審査のために編集協力委員制度の導入を考えております。

第五に、これまで関わりの少なかった関連領域・関連学会との協働・連携を促進していく課題です。関連領域・関連学会の活動的な研究者・教師・実践者に本学会への理解・参加を促進するために、中間集会・学会大会シンポジウム、SNE ジャーナル等における積極的な招聘・寄稿・研究交流等を行っていきたいと思います。

さて、上記の課題を遂行していくために、第 8 期理事会における役割を以下のように担いたしました。今度もどうぞよろしく願いいたします。

代表理事 高橋智

副代表理事 加瀬進

事務局長 村山拓

事務局担当 田中謙

編集委員会

委員長 奥住秀之

副委員長 澤隆史・吉利宗久

編集幹事 田部絢子

* 査読は編集委員（理事）と編集協力委員（会員）にて行う

研究担当理事 荒川智・猪狩恵美子（研究倫理担当）

広報担当理事 二通諭（会報担当）・石川衣紀（ウェブサイト担当）

若者支援・後継者養成担当理事 渡部昭男・小野川文子

大会準備担当理事 2018 年度（田部絢子、大阪体育大学開催で協議中）

2019 年度（未定）

2020 年度（未定）

*2020 年度は東京オリパラ開催のため、その開催時期と場所について考慮を要する。

*2017 年度は埼玉大学

Ⅱ. 学会事務局移転のお知らせ

2016年度の学会総会で第8期理事会体制が承認され、学会規則が一部改正されたことに伴い、学会事務局が埼玉大学から東京学芸大学に移転いたしました。新しい事務局の連絡先は以下の通りとなります。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学特別支援科学講座 村山 拓 研究室気付

jimukyoku@sne-japan.net / TEL&FAX042-329-7393 (研究室直通)

第8期理事会体制では、事務局長の村山と事務局担当理事の田中謙会員とで務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。また、第7期の事務局幹事として学会事務を一手にお引き受け下さった山中冴子会員(埼玉大学)に心より御礼申し上げます。

(理事・事務局長：村山 拓 / 東京学芸大学)

Ⅲ. 年会費納入先について

先述の通り、学会事務局は移転いたしました。学会費納入先には変更ございませんので、新年度の年会費納入につきましては、以下の口座へお振込みをお願い申し上げます。また、事務作業の簡素化のため、今回は振込用紙を同封しておりません。恐れ入りますが、郵便局備え付けの振込用紙をお使いいただけますようお願い申し上げます。

振込先口座

(口座名義) SNE学会

(口座番号) 00110-5-250638

なお、過年度の年会費を滞納されている方につきましては、例えば通信欄に「2017年度年会費」と記載されていても、未納年度にさかのぼっての納入として扱わせていただきますので、ご理解いただけますよう、お願い申し上げます。

(事務局長：村山 拓)

Ⅳ. 学会ウェブサイトのリニューアルについて

新しい理事会体制の始動に伴いまして、SNE学会のウェブサイトを更新いたしました。URLは従前のままとなっております (<http://www.sne-japan.net>)。機動力・発信力の高いサイト運営を進めていきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(広報担当理事・ウェブサイト担当：石川衣紀 / 長崎大学)

V. SNEジャーナル第23号投稿募集について

標記の通り、本学会誌『SNEジャーナル』第23号の投稿原稿を募集いたします。

投稿原稿郵送先

〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 大阪体育大学教育学部

SNEジャーナル編集委員会 田部絢子研究室

なお、今後の投稿締切は2017年5月1日(消印有効)となっておりますので、ご注意ください。また、投稿は郵送と電子メール双方の送付が必要となります。詳細は学会ウェブサイトをご確認ください。(理事・紀要編集委員長：奥住秀之／東京学芸大学)

VI. 2017年度中間集会：シンポジウム「貧困と特別ニーズ教育」

日時：2017年6月4日(日) 13:00~17:00

場所：東京学芸大学 S410 教室 (S/南講義棟4階)

<シンポジウム>

基調提案① (SNE学会副代表理事：加瀬進)：特別な教育的ニーズと貧困問題

基調提案② (パッケージ型支援PJ代表：松田恵示)：「パッケージ型支援」の意味と意義
シンポジスト及び指定討論：SNE学会及びパッケージ型支援PJの双方より数名ずつ(調整中)

今回の中間集会では「貧困」に起因する「特別な教育的ニーズ」の焦点をあて、「パッケージ型支援プロジェクト」を展開する東京学芸大学児童・生徒支援連携センターとの共催でシンポジウムを行います。同プロジェクトは経済的困難性を抱える児童・生徒への、多様な人々の協働による「学校」をプラットフォームにした包括的支援のシステムやあり方を追求する実践&研究です。本学会としても、その成果に学びつつ、新たな発信・発進の機会にしていきたいと企画しました。ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

(副代表理事：加瀬進／東京学芸大学)

VII. 2017年度年次大会について

2017年度の研究大会は、10月14日(土)~15日(日)、埼玉大学にて開催されます。埼玉大学は、北浦和駅(京浜東北線)、もしくは南与野駅(埼京線)からバスで15分ほどのところにあり、都心からのアクセスも良いです。多くの方々のお越しをお待ちしております。(大会準備委員会：山中冴子／埼玉大学)

【編集後記】

第8期理事会のスタートとして、学会通信をお届けいたします。2016年10月に金沢大学で開催された第22回大会・総会の報告等も掲載すべきところですが、今号は第8期理事会の紹介、SNEジャーナルの投稿期日等、速報性を要する内容に限定させていただきました。第22回大会等につきましては、第7期理事会と調整のうえ、次号以降に掲載したいと考えております。今後とも学会活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。(村山記)